

2025 年度
第 4 四半期レポート

2026 年 4 月 21 日

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

内容

【第1章】 運営委員会からの活動報告.....	3
1. 2025年度 会員アンケート結果.....	3
2. 2025年度第4四半期に入会いただいた新規会員.....	4
【第2章】 SOCからの活動報告.....	5
1. 2025年度 第4四半期の概要.....	5
1) 脅威・脆弱性情報の報告件数.....	5
2) 脅威・脆弱性情報レベル.....	6
3) 脅威・脆弱性情報の提供ベンダー2社間での同一案件の比率.....	7
【第3章】 技術委員会からの活動報告.....	8
1. はじめに.....	8
2. 2025年度活動実績報告.....	9
【第4章】 CSECC活動報告.....	11
1. はじめに.....	11
2. 成果物の公開について.....	11
3. 2025年度の活動実績.....	12

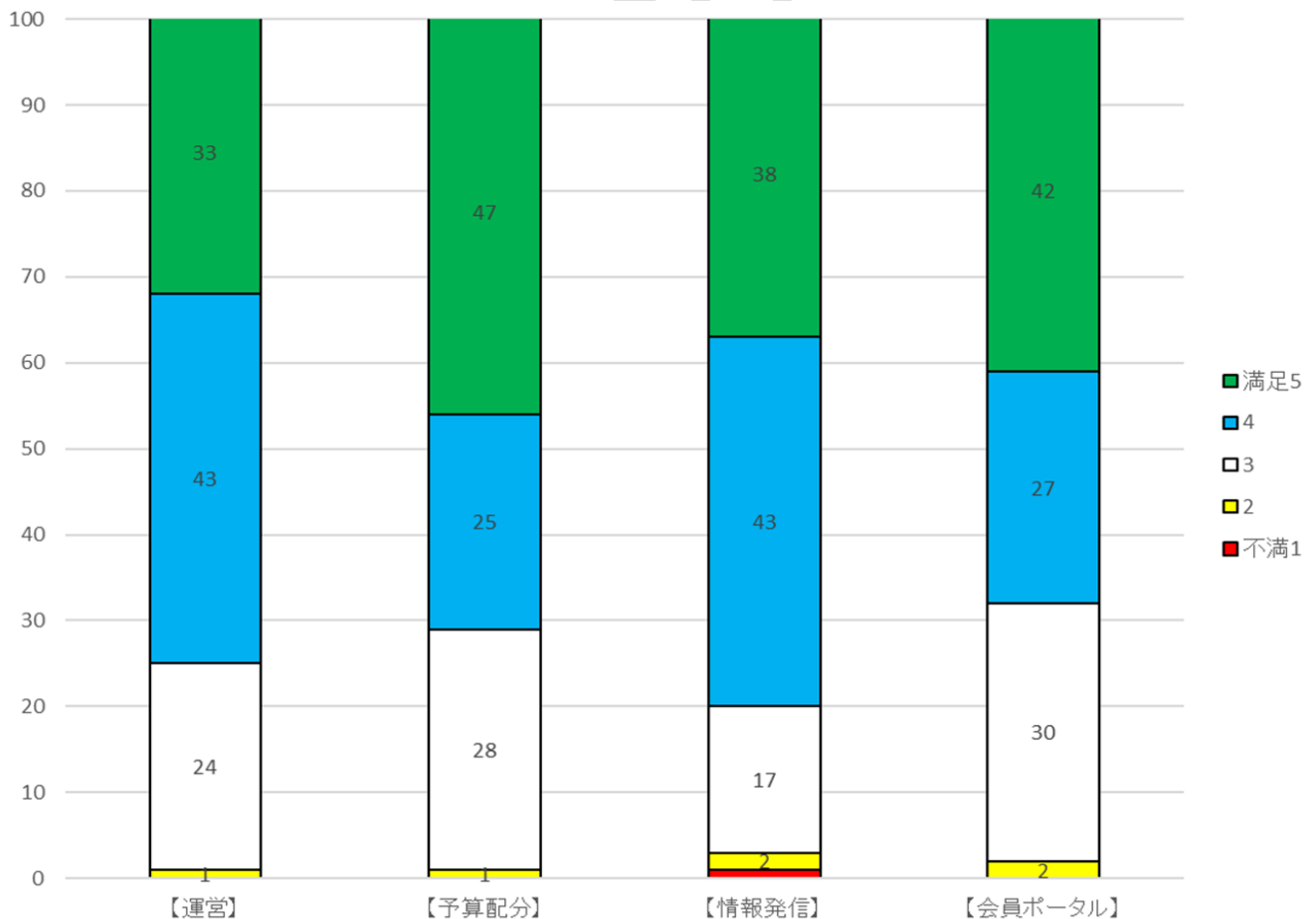
【第1章】 運営委員会からの活動報告

1. 2025 年度 会員アンケート結果

101 社の会員の皆様から会員アンケートに回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

アンケート設問

- (1) 【運営】 J-Auto-ISAC は、2025 年度に運営体制の見直しを行い、中期活動方針に基づいて単年度方針を設定し、法人運営の適切な舵取りに努めております。本取り組みについて御社は満足されていますでしょうか。
- (2) 【予算配分】 J-Auto-ISAC は、3 月 4 日の臨時総会でご説明した内容に基づき、予算を配分して運営しておりますこの予算使途についてのご意見をお聞かせください
- (3) 【情報発信】 J-Auto-ISAC は、ホームページ、Teams、四半期レポート、活動報告会、総会などを通じて、会員の皆様への情報発信に努めております本取り組みについて、御社は満足されていますでしょうか
- (4) 【会員ポータル】 J-Auto-ISAC は、迅速な対応および業務効率化を目的として、2025 年 8 月に会員様向けの各種申請をホームページ内の会員ポータル上で行えるシステムを構築いたしました本取り組みについて、御社は満足されていますでしょうか
- (5) 【全般】 J-Auto-ISAC 活動全般に対する期待・要望、またはご不満がありましたら、ご記載ください



【全般】

評価いただいたコメント

- ・脅威・脆弱性情報が定期的に共有され、有用である。
- ・国際規格や北米 ISAC 動向など、入手しにくい情報を共有できる。
- ・セキュリティ診断の継続が、全体レベル向上につながる。
- ・海外 Auto-ISAC 関連情報や調査資料が、社内共有に活用できる。
- ・OEM・サプライヤー連携を含む協調領域の拡充を期待する。

ご不満に関するコメント

- ・賛助会員とパートナー会員の位置づけが分かりにくい。
- ・情報発信の取り組みが、会員増加に十分結びついていない。
- ・一部 SWG では、将来的な活動継続性を懸念する。
- ・総会等の運営において、進め方に工夫の余地がある。
- ・外部連携の中で、J-Auto-ISAC の役割整理が必要。

皆様からの声を ISAC 運営活動へ取込み、さらなる改善に努めて参ります。今年度も全体運営の改善に向けたアンケートを行いますので、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

2. 2025 年度第 4 四半期に入会いただいた新規会員

新規入会会員

※無し

※2025 年 3 月 31 日時点の会員数 121 社（加えて、学会会員 2 名）

【第2章】 SOC からの活動報告

1. 2025 年度 第 4 四半期の概要

1) 脅威・脆弱性情報の報告件数

2026 年 1 月から 3 月の 90 日間で提供された週次情報レポートの件数は、合計 111 件でした。
図 1 に内訳を示します。

脅威・脆弱性情報の報告件数は、2025 年度第 3 四半期と比較すると増加しています。
なお、車両に関連する新たな重大な脅威・脆弱性情報及びインシデントの発生はありませんでした。

- ① 脅威・脆弱性情報 : 69 件
- ② 業界動向情報 : 42 件

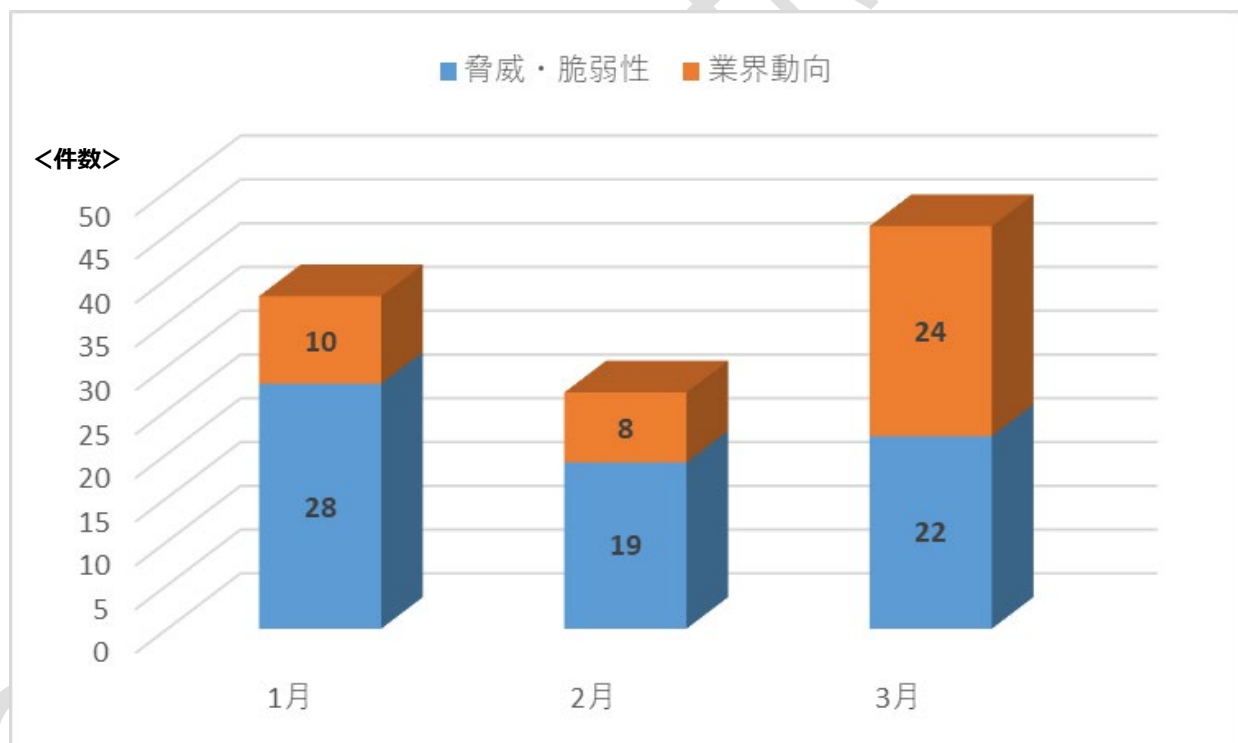


図 1 週次情報レポート 提供件数

※脅威・脆弱性情報件数は、自動車に係わる情報のみであり、かつ同一案件を除く

2) 脅威・脆弱性情報レベル

第4四半期における報告した脅威・脆弱性情報を分類すると図2のようになります。

重大情報と位置付けられた案件はありませんでしたが、要注意情報の件数は平均13件/月で、2025年度第3四半期と比較すると増加しています。

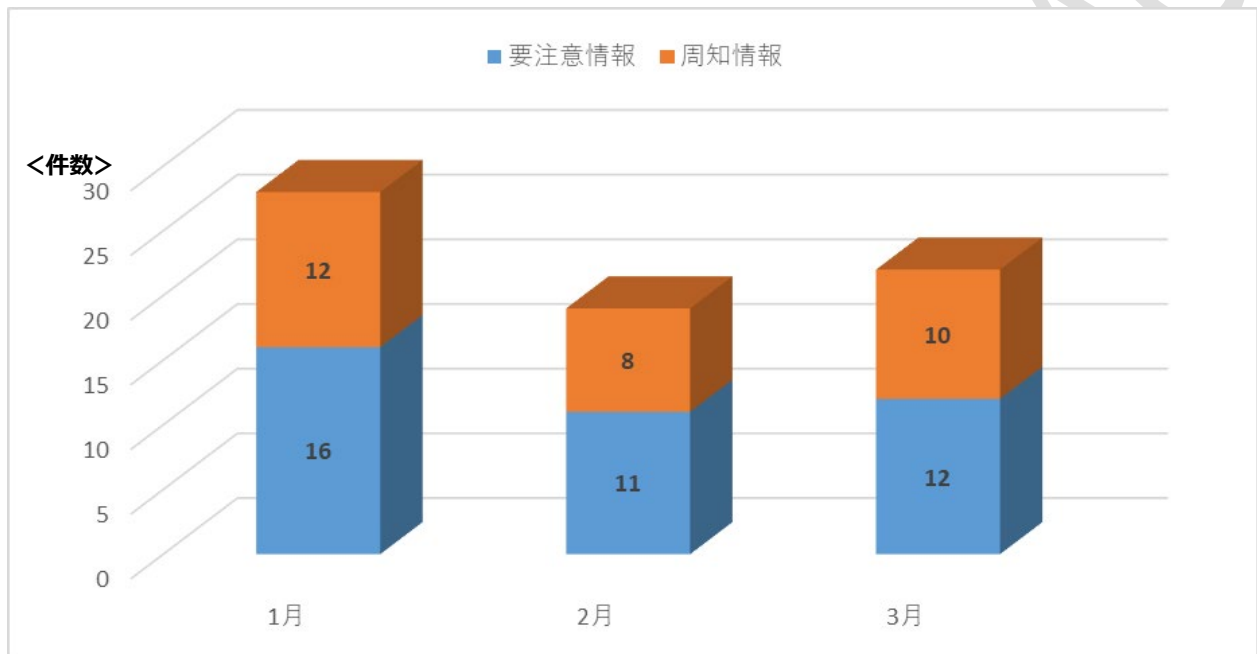


図2 脅威・脆弱性情報 レベル別件数

<参考>

※1. 要注意情報：

自動車への関連性があるが影響度・攻撃可能性が低い脅威・脆弱性情報

※2. 周知情報：

注意すべきセキュリティニュースなど動向として認識すべき情報

※3. 重大情報：

自動車への関連性があり、かつ影響度・攻撃可能性が高い脅威・脆弱性情報

3) 脅威・脆弱性情報の提供ベンダー2社間での同一案件の比率

2社から提供される脅威・脆弱性情報のうち、同一情報の比率は図3に示す通りです。平均して15%程度が同一案件となっており、2025年度第3四半期と比較すると減少しています。

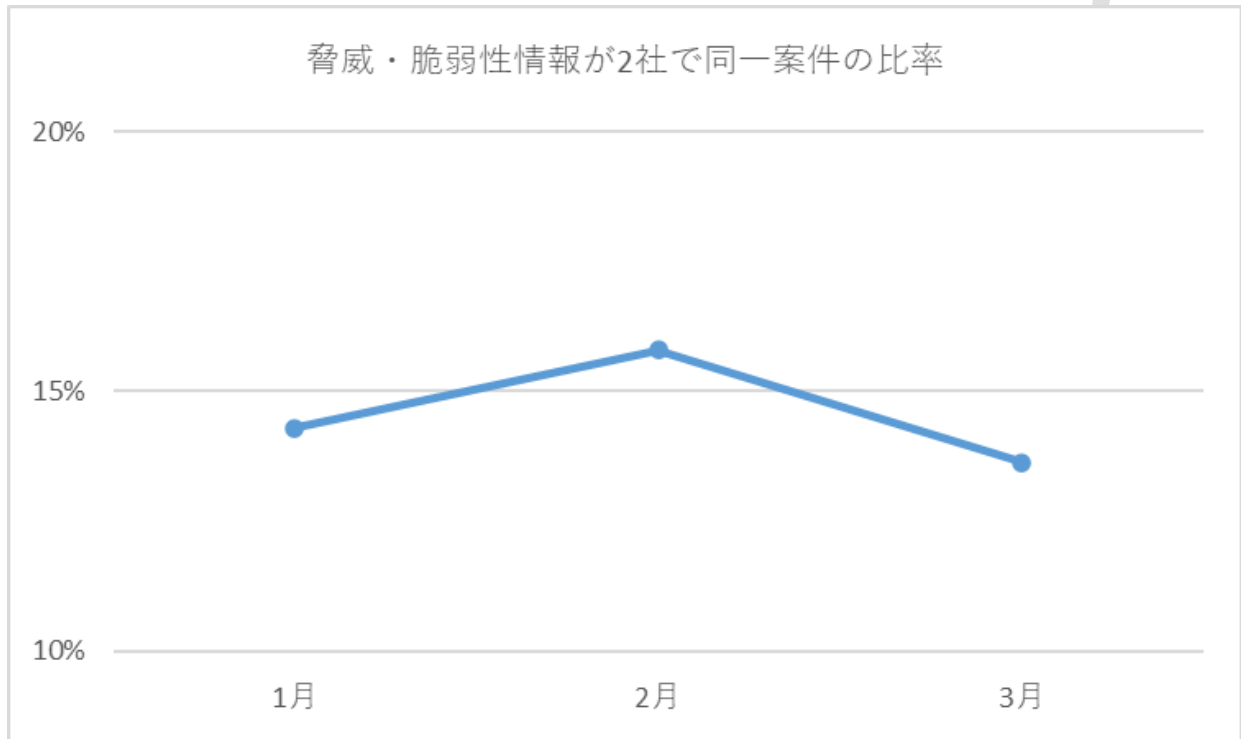


図3 脅威・脆弱性情報 同一案件比率

【第3章】 技術委員会からの活動報告

1. はじめに

技術委員会は、昨年度までの 3WG/11SWG/1TF 構成から 2025 年 4 月より 2WG/6SWG/3TF に再編され、2025 年度の計画に則って活動を推進しています。今回は、2025 年度の活動実績について報告します。

2026 年 3 月時点の技術委員会活動人員を表 1 に示します。

表 1：技術委員会活動人数の推移

委員会/WG/SWG/TF	FY25 1Q 2025.4	FY25 2Q 2025.9	FY25 3Q 2025.12	FY25 4Q 2026.3	前回比増減
技術委員会	218	216	209	206	-3
情報共有 WG	98	96	89	83	-6
インシデント事例検証 SWG	33	30	27	27	0
脆弱性対応 SWG	53	54	50	44	-6
情報共有プラットフォーム SWG	10	10	10	10	0
スキルアップ WG	68	68	68	71	+3
協同演習 SWG	16	15	14	16	+2
個別研修 SWG	20	20	20	20	0
ベストプラクティス策定 SWG	30	31	31	33	+1
サプライチェーンリスク対応 TF	29	28	29	29	0
フォレンジック検討 TF	13	13	12	12	0
法規・標準動向調査 TF	7	8	8	8	0

2. 2025 年度活動実績報告

表 2 : 2025 年度活動実績

実施項目	活動実績概要
1)技術委員会の戦略策定 業界に必要なサイバーセキュリティ対応能力の強化に向けた戦略の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会戦略 TF 及び幹事会策定の中長期方針（目標）との整合 ・CSECC 活動から出た技術委員会として取り組むべき技術課題への対応
2)成果物の発行 技術委員会傘下 6 つの SWG と 3 つの TF 活動を通じて参加会員の活発な意見交換やナレッジ共有を継続すると共に参加各社のサイバーセキュリティ対応能力の強化に貢献出来る成果物の発行	<ul style="list-style-type: none"> ・SWG・TF 活動を通じて参加会員の相互の活発な意見交換やナレッジ共有を継続 ・当初計画に加え多くの成果物を作成、発行できた

技術委員会の戦略策定については会員からの個別ヒアリング結果を受けた対応を、技術委員会、WG、SWG それぞれのレベルで検討し 2026 年度活動計画に反映しました。

また CSECC で業界団体連携し作成したスキルマップに対して、各スキルの向上につながる教育資料としてスキルアップ WG 内の成果物割当て検討を開始しました。

7 月に実施した協同演習では技術委員会成果物を活用し、改善のためのフィードバックに繋げることができました。

- ・クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティの取組み（一般公開）
- ・インシデント分析技術レポートフォーマット

成果物については計画に基づく発行に加え、より多く作成、発行することができました。

以下が追加分です

- ・インシデント対応ベストプラクティス文書
- ・ベストプラクティス リスク特定・対策の手引き(更新)
- ・初学者の虎の巻（一般公開）
- ・初学者の虎の巻第 2 弾

表 3 : 活動成果物一覧（発行成果物） ※太枠は第 4 四半期分

時期	成果物
2024 年 5 月	・第 5 回活動報告会（各 SWG/TF 活動報告書）
2025 年 6 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#1
2025 年 7 月	・協同演習の開催（@2025/7/23）
2025 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント事例に基づいた技術レポート#2 ・脆弱性分析レポート#1 ・クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティ取り組み(更新) ・ユースケース集(サプライチェーンリスク対応 TF) ・協同演習速報
2025 年 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 6 回活動報告会（各 SWG/TF 活動・実績報告書） ・インシデント事例に基づいた技術レポート#3 ・クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティ取り組み 付属書 2 編 ・製品セキュリティ品質保証プロセスにおけるリスク特定・対策の手引き ・製品セキュリティ品質保証プロセスにおける手引き 解説書 ・協同演習レポート ・ベストプラクティス解説書 ・ベストプラクティス リスク特定・対策の手引き(更新)
2026 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント対応の手引き ・自動車フォレンジックの現状整理と基礎的考察 ・初学者の虎の巻（一般公開）
2026 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント事例に基づいた技術レポート#4 ・脆弱性分析レポート#2 ・車両システムにおけるサイバーセキュリティで考慮すべき基本機能ガイド ・SWG 版 Car モデル(脆弱性対応 SWG)
2026 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・初学者の虎の巻 第 2 弾 ・インシデント対応ベストプラクティス文書

【第4章】 CSECC 活動報告

1. はじめに

サイバーセキュリティエコシステム構築センター（以降、CSECC）では、自動車業界全体のサイバーセキュリティ対応能力を中長期的な視野で底上げすることを目標に、日本自動車工業会（JAMA）、自動車技術会（JSAE）、JASPAR、日本自動車部品工業会（JAPIA）、Auto-ISACなどの業界団体と連携し、抜け漏れのないCS品質向上活動の実現を目指しています。

現在、CSECC傘下には2つのワーキンググループ（WG）があり、セキュリティ人材育成WGには21社から26名、SBOM-WGには30社から48名が参加しています。これらのWGでは、業界連携に必要な成果物の策定を行うとともに、参加メンバーによる実務レベルでのナレッジ共有と意見交換の場を提供しています。

今回は2月に公開した成果物の紹介、および2025年度の活動実績について報告します。

2. 成果物の公開について

2026年2月10日、自動車業界におけるサイバーセキュリティ品質向上活動に必要となる役割や責務、求められる知識・技能を体系的に整理した『自動車サイバーセキュリティ品質向上活動スキル棚卸シート Ver1.0』をホームページにて公開いたしました。（詳細は下記よりダウンロードしてご確認ください。）

<https://j-auto-isac.or.jp/documents/>

注）資料の閲覧には申込者情報の入力が必要となります。

本スキル棚卸シートは、IR活動における情報監視からインシデントレスポンスまで、サイバーセキュリティ品質向上活動における一連の業務ごとに、組織および人材が果たすべき役割、責任、必要なスキルの例を整理したものです。本書は、自動車関連事業者が自社の担当組織・人材のスキルを客観的に把握し、能力向上に向けた計画の策定と実行にご活用いただけると期待しております。

3. 2025 年度の活動実績

CSECC の取り組み内容と活動結果を表 1 に示します。

表 1 2025 年度の取り組み内容と活動実績

項目	取り組み内容	活動実績
セキュリティ 人材育成 WG	<ul style="list-style-type: none"> ・業界団体で議論のベースとなるスキルマップ初版の作成 ・業界団体で教育体系と役割分担の整合 ・J-Auto-ISAC における教育資料の計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルマップ初版の作成完了 ・業界団体連携は 2026 年度に変更 ・国内外の公開サイトと参考資料を調査し、教育資料をリストアップ
SBOM- WG	<ul style="list-style-type: none"> ・SBOM 活用の文書公開 ・業界団体でのスコープとユースケースの合意 ・文書改訂に向けた意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・SBOM 活用文書の一般公開完了 ・関連する業界団体と議論を実施中 ・SBOM 活用文書を改訂中

セキュリティ人材育成 WG では、本年度、自動車業界団体のセキュリティ人材育成で議論のベースとなるスキルマップ初版を作成しました。本スキルマップは、自動車のライフサイクルごとに担当する部門、および UN-R155 で求められるスキルを整理したものとなっています。また表中にはそのスキル習得に活用できる教育資料もリストアップされています。2026 年度は、業界団体と連携してスキルマップの精査やスパイラルアップを行っていき、人材育成の祖とすると同時にその育成に向けた教育体系と役割分担について議論を進めて行く予定です。

SBOM-WG では、本年度、SBOM 活用文書の初版作成と一般公開を行いました。SBOM 活用文書は、自動車業界に適した SBOM の考え方を整理したものです。現在、初版をブラッシュアップした改訂作業を行っています。また、関連する業界団体との連携では、JAMA, JSAE, JASPAR と合同会議を持ち SBOM 活用に向けた実務者による議論を継続して実施中です。

2025 年度、CSECC の成果物発行実績を表 2 に示します。

表 2 CSECC 成果物発行実績 (J-Auto-ISAC 内部公開を含む)

年月	成果物
2025 年 5 月	● 第 5 回 TC&CSECC 合同活動報告会 (各 WG 活動報告書)
2025 年 6 月	● SBOM 活用文書 (初版)
2025 年 10 月	● Auto-ISAC Cybersecurity Summit 2025 レポート
2025 年 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 6 回 TC&CSECC 合同活動報告会 (各 WG 活動報告書) ● セキュリティ人材育成スキルマップ (初版) ● SBOM 活用の文書 (初版) の一般公開
2026 年 2 月	● スキル棚卸シート Ver1.0 の一般公開

CSECC 設立より 1 年、CSECC では、個社対応では限界がある課題について、業界全体の視点を持ち、業界団体間で議論のベースとなる資料を成果物として作成してきました。SBOM に関しては、作成した資料をベースに、業界団体間の議論を開始しました。2026 年度は、この活動を更に発展させて行く予定です。

以上

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

E-mail : info@j-auto-isac.or.jp

<https://j-auto-isac.or.jp/>